



一般社団法人 埼玉私保連

# 広報

No.127

H28. 3月

発行



「うら山は宝の山」  
～都会の中でも自然を満喫～

Saitamaken Siritu Hoikuen Renmei

# 全国私立保育園連盟 子どもの育ちを支える運動シンポジウムin埼玉 子どもの育ちを支える運動とは

期日：2015年11月24日(火)

13時30分～17時

場所：ラフレさいたま「桃の間」

講師：中京大学客員教授 鯨岡 峻



全私保連・関東ブロック会長の川下勝利様から挨拶をいただき始まりました。全国私保連・運動推進委員長・岡村斉様より、「子どもの育ちを支える運動を推進してきた。各ブロックの実践をもとに勉強の成果を出し合い、保育の質を高めていきたい。」と開催主旨説明がありました。

**子どもの育ちを支える運動の推進について**

全国私立保育園連盟は、全国の私立認可保育園が乳幼児の幸せと健やかな成長を願って結成された。それぞれの地域における保育ニーズや、保育をとりま

く状況を把握して、そのための制度や運営の在り方、保育内容の充実のために様々な取組を展開している。全国私立保育園連盟が進める3つの運動は①予算対策運動、②制度改革運動、③子どもの育ちを支える運動である。

①予算対策運動…制度を運用するための予算を獲得するための運動

②制度改革運動…より良い保育制度の構築を目指す運動。保育三団体協議会を立ち上げ運動に取り組んで行く。

③子どもの育ちを支える運動…人間の基礎となる幼児期の心を育てる。





「子どもの育ちを支える運動」の目指すところは、子どもを中心に、保護者を含む周りの大人、その大人を支える地域社会、そして社会すべてが子どもを見守る「すべての人が子どもの育ちを支える社会」の実現である。子どもの心の育ちを支え笑顔あふれる社会へ。運動を地域、社会に広げて行く。

鯨岡先生の公演がありその後実践を元に「接面」から「養護の働き」と「教育の働き」について考えました。

## 1. 子どもの心を育てる事こそ保育の喫緊の課題である

出来るようになる力を育てることより一人の主体としての心がしっかり育まれているかどうか重要な意味を持っている。子どもの心を育てることは力をつける以上に喫緊の課題だと言える

## 2. 主体としての心を育てる

主体とは、自分の思いをもって自分らしく周囲の人と共に生きる存在であり、二つの面とは「自分らしく生きる」存在と「周囲の人と生きる」存在である。主体としての心を育てるため

に、子どもの心の動きに着目した据え方こそ、子どもの心の育ちに目を向ける本来の保育の姿である。

## 3. 「育てる」という営みに立ち返る

養護する行為のことだけでなく、おとなの子どもを優しく包む心が伴って初めて、子どもに必要な行為になる。「養護の働きが信頼感と自己肯定感の育ちにつながる。大人主導の一方的な「させる」「教え込む」だけ



のことでなく、大人は子どもが一人前の大人に近づいていくことが出来るように誘い、導き、教え、伝え、禁止や制止を示し、時に叱るおとなの対応である。「育てる」営みは「養護の働き」と「教育の働き」から成る。

## 4. 「養護の働き」と「教育の働き」を理解するには「接面」の概念が欠かせない

接面とは思いをキャッチしてどうしようか考え関係を取り結ぶこと。接面では子どもの言動だけでなく、その言動の基になった情動の働きがその接面を通して当事者に把握される。寄り添うとは、その子のそばに在る事ではなく、子どもの心に自分の心を寄り添うこと。

## 5. なぜこれまで接面で起こっていることが取り上げられてこなかったのか

客観科学のパラダイム（枠組み）が実践に強い影響を及ぼしてきた。二つのパラダイムの違いは「接面を無視し、客観的に関係を考える」ものと「接面で生じていることを重視する」ものの。

## 6. 接面で起こっていることはエピソードに描かない限り他者に伝えられない

接面は「客観的にそこにある」という性質のものではなく、接面の一方の当事者である主体にとってそれが接面といえるものの

## 7. 二つのエピソード記述を通してこれまでの議論を振り返る

保育者が何を考えて言葉をかけたか、どうしたかをエピソードにしていく。子どもの声で結びついた大人の心の動きが大事であり、そのことが子どもの心を育てる。保育士の子どもに対する思いや言葉がけが書かれると大人の心の動きが子どもの心を育てることが表される。

講演は、実際の事例を基に「養護の働きと教育の働き」とは何か「接面」とは何か、接面の記録から見えてくる子どもの成長についてお話ししていただきました。また、講演には群馬、千葉、栃木、静岡、東京、埼玉から110名ほどの参加を頂き、盛況のうちに終了しました。

## 施設訪問こんにちは

訪問先(さいたま市)

## 浦和ひなどり保育園

園長 丸山 和彦先生



を、試行錯誤を繰り返しながら職員さんと作り上げてきたそうです。

## どんぐり山の活動

平成十九年に、隣接する醫王寺の杜に手を入れ、自然の生態系を壊すことなく子どもたちが安心して遊べるビオトープを完成させ、「どんぐり山の活動」をスタートさせました。初めのうちは、どんこんになることに抵抗があった子どもたちも次第に、土に親しみ自然物を工夫し想像力を働かせ遊ぶ楽しさを見つけていったそうです。どんぐり山での最大の遊具は自然です。運動遊び、見立て遊び、ごっこ遊び、探索遊びなど様々な遊びが子ども達自身の手で展開していきます。よちよち歩きの子から年長児まで年齢問わずに、それぞれがそれぞれの目で楽しいことを見つけて遊ぶ姿があり、異年齢交流が自然に行われていました。当番活動も盛んに行われていて、畑当番や虫当番など小グループで雨の日でも出かけるなど、とても柔軟に動くそうです。どんぐり山の起伏に富んだ杜には、様々な木々があり季

節の野菜を育てる畑や電車に見える丘などがあります。この環境を維持するために、父母の会から毎年寄付を頂き、保育士や子ども達、ビオトープ管理士などが整備をしているそうです。この活動は、平成二十六年、全

## 「あそぶ、たべる、ねる」のゾーン

子ども主体の保育に切り替える中で、子どもたちの変化、保育士の変化が見え始めた平成二十三年、園舎の建て替えに取り組みます。園舎作りは、発達心理学の専門家と保育者などが図面の段階から打ち合わせを繰り返し、あえて高低差を付けるなど、子どもの経験の幅を広げること

を第一に考えて進めたそうです。廊下を極力なくし居住空間を広くすることで、フルオープンな保育室では、その歳児なりに子ども自身が出来る事を任せ、発達を助長していくための工夫や、異年齢での助け合いが自然と促されるような工夫が施されています。

節の野菜を育てる畑や電車に見える丘などがあります。この環境を維持するために、父母の会から毎年寄付を頂き、保育士や子ども達、ビオトープ管理士などが整備をしているそうです。この活動は、平成二十六年、全

二階は、2〜5歳児のゾーンです。レイアウトの基本は一階と同じです。遊びのゾーンは、読書・積み木・制作・和室などに別れていましたが、時期や活動のねらいによって、部屋割りが変化していくそうです。それぞれの遊びが充実するように柵や物が豊富で、片付けずに続きから取り組める様な工夫もなされていきました。手洗い場はアイランド式、四方から使用できるようになっていることに驚かされました。





## 保育テーマや職員目標

マンネリ化しやすい日常の保育に、新たな視点を設けて行く為に、年間のテーマや職員目標を定めているそうです。昨年の保育のテーマは「しごと」で、当番活動など大きく見直したり、保護者の職場訪問などを行ったそうです。

また今年のテーマは「なかま」で、子ども同士を繋げる工夫をしたり、子どもの様々な場面での参画を推し進めているそうです。職員目標は「アートの楽しさを広げて、子どもの年度毎のテーマや目標に向けて、意識して仕組みや環境を整え日々の生活を豊かにしたいと考えているそうです。玄関ホー



ルや階段に子ども自身が描いた自画像がグループごとに飾られており、園全体が日々の活動の展示スペースとなっていました。

## 選択制の保育

子どもたちがどこで何をしながら遊ぶかを、幾つかの選択肢の中から自分で選び、その日の活動が始まります。その選択を尊重しながら活動がより豊かに、また安全に行える様に保育者は子どもたちの活動を見守っていきます。子どもたちは、自分で考え感じたことを自由に表現しており保育者は全く指示することなく、子どもの気持ちに寄り添うような言葉かけを行っていました。次々と変化してゆく子どもたちの思考を読み取ることに集中し、大人の概念で決めつけるようなことはありません。子どもを信じ、尊重しているからこそできることだと思いました。給食の時は半鐘で合図が聞こえると、自分で気付いて、遊びを切り上げ保育室へ。当番による給食の準備が整うまで、園庭で遊ぶ子どもなど、全員が画一の動きをするのではなく、それぞれが自分の役割を理解して、生活を楽しんでいっていることを感じました。「人から指示や命令を受けて、怒られるからやるのではなく、自分が困るだとか好きだからやる。何歳だからこれをやるのではなく自分で選ぶ行動することが大切。自身の選択や決断が自



身の運命を形作ることを、乳幼児期から伝えていきたい。」と丸山先生はおっしゃっていました。

## 大人が引っ張る保育から見守る保育へ

丸山先生が保育の現場に入られた当時、見栄えの良い行事を行うために大人主導の練習が行われ、日々の保育は時間に追われ、忙しなく過ぎて行ったそうです。職員は年齢別に子ども達を引っ張っていくのに一生懸命で、子ども達一人ひとりの想いを聴き漏らしてしまうことや、活動を嫌いにさせてしまうことが多い。当時、目指すべき保育像を話し合っていた際に、ある保育者が語った「土曜日みたいなゆったりとした保育をしたいね。」という言葉がとても印象

に残っているそうです。

そこで他園の見学などを通して、少しずつ手さぐりで保育環境や仕組みを整えながら、子ども達自身に活動を委ねていく中で、子ども達が意欲的に活動に取り組む姿が見えてきます。そんな中で職員にも余裕や柔軟性が生まれ、日々が豊かになって行く手ごたえを感じていったそうです。自然体験、当番活動、選択理論、アートの活動等々、特色はたくさんありますが、浦和ひなどり保育園では、そういった豊かな活動を大人が教え込むのではなく、仕組みや環境として用意し、大人は一步下がって、子ども達を見守る保育を実践していました。

## 保育を支えるチームの力

「子どもたちとは、ハイタッチするでしょ。うちでは職員同士もハイタッチで挨拶するのですよ。初めは、恥ずかしくて抵抗があったようですが、今では笑いながら自然にしていますよ。」と丸山先生。職員が自主的にマラソン部を作っていると聞きしました。職員間の同僚性、団結力は抜群です。卒園制作の等身大の自画像を描いた木札が、この春、屋上園庭に飾られるそうです。きつと、個性的なアート作品が並ぶのでしょう。また一つ、浦和ひなどり保育園での活動が花を咲かせます。

## 研修報告

# 「社会福祉法人の本部運営のあり方について」

期日：2016年2月26日（金）13：45～16：30 会場：大宮法科大学院ビル 講堂  
講師：社会福祉法人双葉保育園 常務理事 武藤 素明氏

保育制度の改正に続き社会福祉法人制度の改正が出されています。法人運営も改定されるのか、評議員会の設置や理事会と評議員会との関係がどうなるのか、何をしたらいいのか。不安ななかで本研修が行われました。定刻になり、研修部長の新島ちえ美より武藤先生の紹介と挨拶があり、講演が始まりました。

講演はまず、今回社会福祉法人の改定が出された経過と背景はなにか。次にこれから社会福祉法人はどうなっていくのか。そして具体的に法人本部をどうつくり、本部運営とはなにか、など、武藤先生の今までの経験と、例として現在のご自身の法人運営をあげて具体的にお話しいただきました。

1. 社会福祉法人制度の改革の経過と今後の社会福祉法人のあり方

福祉だけでなく、すべての分野で地方分権化推進の流れがあ

り、介護保険、障害者自立支援制度、保育所制度等により、福祉分野が措置制度から利用契約制度に変えられている。ここ15年間は社会福祉分野も剰余金・引当金等の取り扱い等の緩和策を行い出来る限り規制を無くし、自主的な経営が出来るようになってきた。そのことにより、企業と法人の違いはなにか、公費を投入する意味はなにか、社会福祉法人の役割と責任・「非営利性」「公共性」「公益性」が問われている。

公費投入と内部留保問題・税制問題・退職共済制度のみなおしなどが出されている。特に課税問題については自民党・社会福祉推進議員連盟の動き等あり、「すぐには課税についてはしない」と云うことで結論を出した。ただし、「社会福祉法人制度の見直しをする」ことを条件に非課税とした。従って、今回、社会福祉法人の見直しを行って、その後の検証をする中で、再度

課税問題は出てくるであろう。（早ければ消費税増税や企業の法人税、景気動向等で議論となるであろう）とのこと。

2. 社会福祉法人改革の中身について

① 社会福祉法人制度の意義として非営利性・公共性・公益性を必要とし、地域貢献や社会貢献を求められている。

② 運営の透明性の確保のあり方については財務諸表、活動状況、役員報酬等（貸借対照表、収支計算書、現況報告書、役員区分ごとの報酬総額、役員報酬基準）などホームページを活用して公表するよう求められている。

③ 組織運営：理事会、評議員会、監事、会計監査等のあり方については・理事長・理事等の義務と責任を法律上規定化・評議員会の必置、評議員会を諮問機関から決議



機関へ・評議員も中立性や第三者性を担保（所管庁の認可制へ）・監事の権限と義務を法律上に規定となる。

④業務運営・財務運営のあり方については、余裕財産の明確化、内部留保を明確にし、控除対象財産と再投下可能財産以外は地域貢献、社会貢献に再投下する。

⑤法人の連携・協働等のあり方が、あり方検討委員会で論議されている。

⑥行政の関与のあり方

⑦他制度における社会福祉法人の位置づけ

社会福祉施設職員退職手当共済のあり方は来年度より障害分野は廃止、保育分野は29年度見直し、措置施設分野は継続となる。

3. 今回の社会福祉法人制度の見直しにおいて、今後予測される課題と対応について

(1)地域の福祉施設・社福法人に対する期待や求めているもの

をリサーチし、実現させるには何が必要か、どうすればいいかなどを検討し、社会福祉法人としての信頼性の構築を獲得することを目指す。

(2)地域貢献・社会貢献活動のあり方を検討する。また、今やっていることを地域に発信していく。本来取り組むべき課題の充実策を考え、本来業務を取り巻く周辺の課題へ取り組む。そして、地域貢献や社会貢献事業への参画をしていくと考える。

(3)経営と運営の透明性を確保するため、下記の事を考えていく

①事業計画（年度・中長期）、事業の実施、管理、新規事業計画、事業展開

②予算・決算、財務管理、資金計画、給与、財産管理等

③人事制度・人事管理、メンタルヘルス、福利厚生

④危機管理

⑤広報活動、情報開示、ネット

トワーク機能

⑥役員会（理事会、評議員会、管理者会、その他委員会等）機能の発揮

⑦法人本部機能の強化

4. 社会福祉法人二葉保育園の法人の法人本部のあり方、作り方。法人機能の充実策そして、法人本部の財政基盤などが話されました。

5. 社会福祉法人の今後と本部機能の充実課題が話されました。

①客観的社会情勢変化の見極めと意思統一

②中・長期計画として安定的な事業規模や法人規模を目指す

③理事、評議員、監事（理事長、常務理事の法人役員）の選出と役割

④何と言っても人育て、人材育成、（園長、主任、事務、リーダー、事務局）改革のモチベーションを保つことが重要。とくに中堅職員の

位置づけや役割は重要である。（組織の将来を考える）

⑤何をやるにも財政把握と展望を持つことも重要。

⑥リスク管理も近年とても重要になっている。

⑦常にP-D-C-I-Aのサイクル実践を取り入れることの重要性

⑧その実践の情報等の中核に法人本部がなること

まとめとして、『常に、経営者だけでなく園長も、事務も、現場の職員もこれらの情報等を常に学び、改革のモチベーションをもつことが大切である。またそのための学びが必要なのだろう。社会福祉法人としての理念と目的を常に明確にしながらかも、時代、次代に変化していく福祉・保育ニーズに、どう取り組んでいくかを真剣に議論していくことが必要なときである。』と話を締めくくられました。

## ● 処遇改善に関する留意点 ●

平成28年3月9日内閣府告示第22号が発出され、平成28年3月15日付事務連絡が出されました。内容としては平成27年度分の国家公務員の人事院勧告の4月遡及分を平成27年度に限り特例として、公定価格の総額に1.29%とする旨の内容となっており、既にご案内の通りとなります。

さらに、事務連絡において、処遇改善における今回の27年度人勧分の取り扱いについては以下のように示されました。

### 2. 平成27年度補正予算により引上げとなる公定価格及び処遇改善等加算の取扱い

#### (1) 引上げ分の使途について

今回の公定価格単価の引上げは、幼稚園教諭・保育士等の給与が着実に改善されるよう、国家公務員給与の改定に応じて人件費相当分を増額したことによるものである。各施設においては、この趣旨や各施設におけるこれまでの処遇改善等の状況を踏まえ、引上げ分を基本給や一時金等により各職員に支給するなど適切に活用する必要があること。

#### (2) 処遇改善等加算の取扱いについて

##### ① 平成27年度における取扱い

今回の引上げ分は、年度末又は次年度当初に追加で給付が行われることとなるという事情に鑑み、平成27年度における処遇改善等加算の処理に当たっては、賃金改善の起点となる賃金総額（公定価格における人件費の改定状況を踏まえた部分）に含ませることはせず、今回の引上げ分を含まない水準の賃金総額をベースとして「賃金改善総額」を算定すること。

平成27年度の人事院勧告（4月遡及分）も確実に職員への基本給の引き上げや一時金等に活用する事となっています。しかし、今回の差額遡及分が実際に保育園に支弁される時期が3月末若しくは年度を超えてからになる自治体もある事から、27年度の処遇改善の実績報告への記載に関しては、「基準年度の給与規定に基づいた27年度職員の賃金総額」に27年度の公定価格に含まれている26年度分の人事院勧告分（2%）のみを足した総額を記載すればよいという事になりました。

（注意）平成27年度分の公定価格に含まれる27年度人事院勧告（4月遡及分）については上記の通り、実績報告書には記載しませんが、支給をしなくても良いという訳ではありませんので、処遇改善加算（賃金改善要件分）とあわせて取り扱いには十分注意してください。

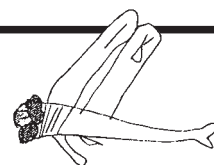
お問い合わせは 埼玉県私立保育園連盟事務局  
TEL 048-772-8623

## ☆☆ 編集後記 ☆☆

平成27年度の制度改定は本当に困りものです。まず運営費（委託費）の請求が非常に煩雑になりました。加算の請求に至っては、要綱がなかなか出ない上に難解な解釈、恐ろしく複雑な計算が必要です。我々保育事業者の手間を増大させただけでなく、自治体の所掌部署にも多大な業務増加や残業を強いています。28年度は大幅に改善して欲しいと思います。（M・K）

卒業シーズンですね。毎年、小学校の卒業式に出席しています。6年前、保育園の卒園式でかわいらしかった子たちが、背も伸び、大人びた面差しで将来の夢を語り卒業証書を手にする姿に、思わず涙腺がゆるんでしまいます。巣立ちゆくすべての子らに、幸多かれと祈る春です。（T・M）

事務局 (一社)埼玉県私立保育園連盟  
〒363-0015 桶川市南2-7-13 桶川中央マンション2F  
TEL 048(772)8623  
FAX 048(772)8635



## 保育園および園児を さまざまリスクから サポートします

全私保連  
保険制度

園児総合保障  
共済制度

上記以外にも、「学童保育」や「園舎の火災保険」などの、  
保険を取り扱っております。  
ご照会は、下記連絡先どうぞ。

（一社）全国私立保育園連盟指定・  
東京海上日動火災保険株式会社代理店

## 有限会社ゼンポ

〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育園会館内  
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806